

学校対応（民具体験）

解説マニュアル

○5種類の民具体験解説

○道具素材解説

○総合展示解説（民俗展示部門・民具）

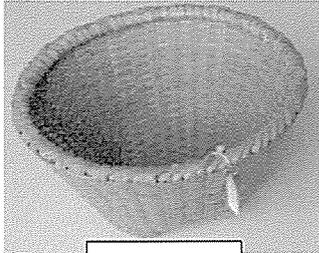


沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

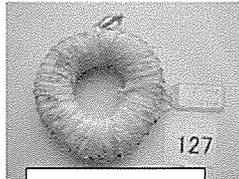
作成 沖縄県立博物館・美術館 教育普及作成

1) 運搬の道具【魚など】（バーキ／ガンシナ／ティール）

使用する民具



バーキ



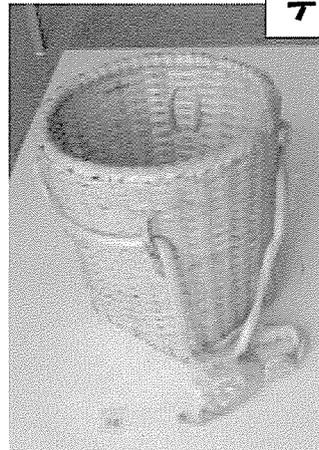
ガンシナ

その他か

重り

☆さかな

☆作物 など



ティール

導入のポイント

☆この体験では、「モノを運ぶために、昔の人はどういう道具の工夫をしていたか」について学ぶことを伝える。

☆導入

Q：みなさんがモノを運ぶときには、どんなものを使って運んでいますか？

A：場面問いかけと、予想される答え

- ①学校へ行くとき（ランドセル・カバン）
- ②遠足や遊びに行くとき（リュック、バッグ）
- ③買い物（エコバッグ・レジ袋 他）

★今はいろんな素材で道具ができていますが、昔の人は自分の身の周りにある、さまざまな材料を使って、道具を作りだしていました。

展開1（材料を知る）

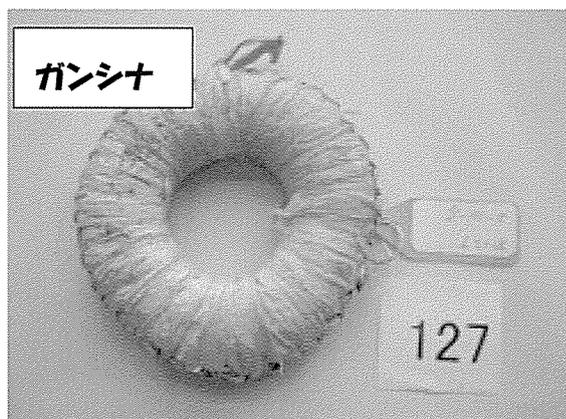
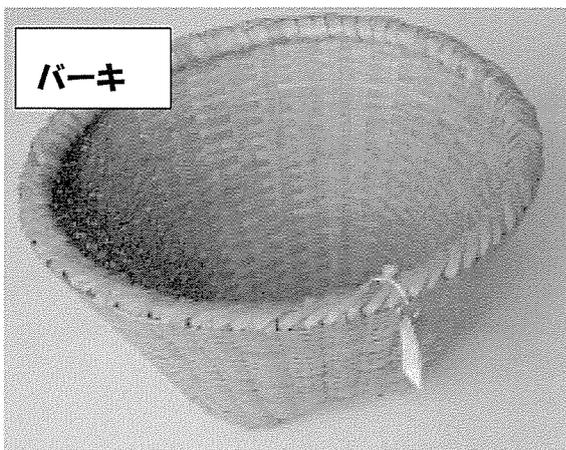
今日ここに用意したのは、海が近くにある地域の道具と、ヤンバルなどの山が多い地域の道具です。それぞれ触ってみましょう。



カゴはそれぞれ、竹でできていることを知る。

それでは、それぞれの道具について、解説していきましょう。

展開2（材料の名前・機能・使い方について知る）①名前・機能



☆この道具の名前は、「バーキ」といいます。

☆沖縄で暮らす人々が、とってきた魚や作物などをバーキの中に入れて、頭の上に乗せて運んだりしていました。

☆でも、そのまま頭にバーキを乗せると、重くて頭が痛くなったり、グラグラすることがあります。

☆そこで、植物の葉や縄などをドーナツの形にして作った、「ガンシナ」で、頭を守り、安定して荷物が運べるように工夫しました。

☆入れるものが重い場合には、持つ人がしゃがんで、別の人が手伝って頭の上に乗せていました。

☆続いて、この道具の名前は、「ティール」といいます。

☆運ぶものをこの中に入れて、つけてある太い帯を額の上のほうにかけて運んでいました。

☆沖縄本島の北のほう（国頭地方・ヤンバル）では、女の人でも60kgくらい（小学3年生なら2人分くらいの重さ）は持って運んでいたようです。

☆これは、バーキとちがって一人でも重い荷物を持ち上げて運べるように工夫した、昔の人たちの知恵なのです

展開2（材料の名前・機能・使い方について知る）②それぞれの民具使い方



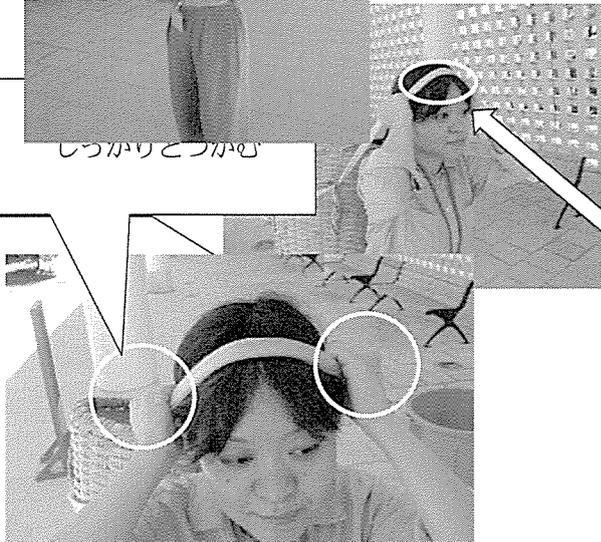
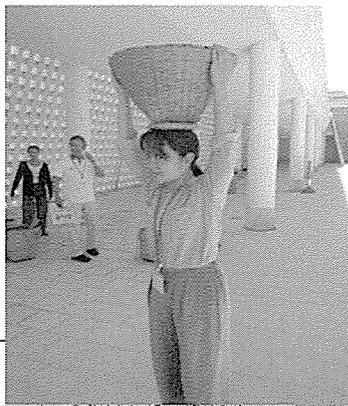
☆使い方1

どちらの道具も、持つときにはしゃがんでスタンバイする。

★体験後（時間があれば、）大変だったところや、感じたことなど、児童から感想を聞く。

☆使い方2-1《バーキ》

- ①まず、ガンシナを頭に置く。
- ②次に両手でバーキを持って、「バンザイ」するように、頭に置いたガンシナの上に置く。
- ③ゆっくりと立ち、歩いてみる。
（コース下記参照）
- ④本来魚や作物（ここでは重り）が入れているので、降ろす時はこぼさないように注意させる。

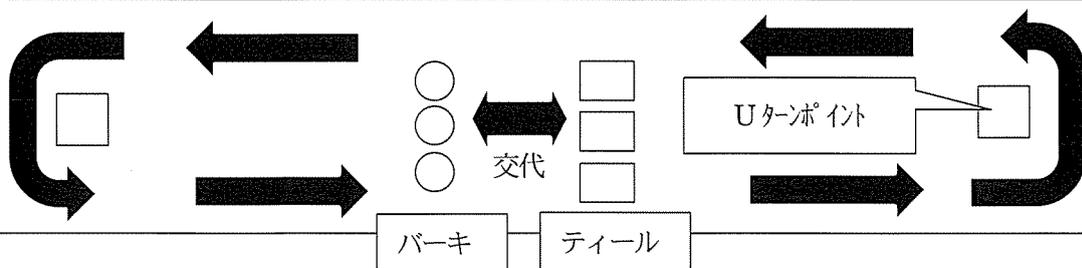


☆使い方2-2《ティール》

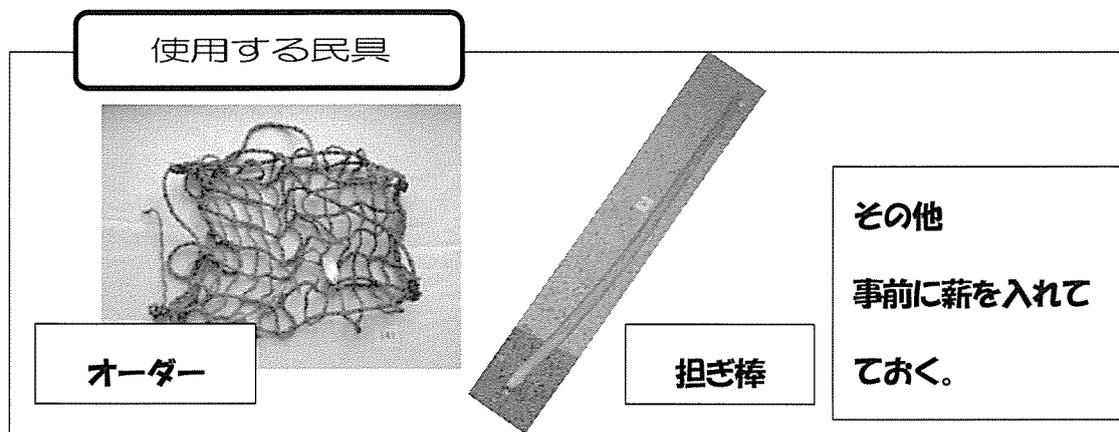
- ①まず、カゴを背中にして帯を頭のでっぺんの少し前のほうに、巻くようにつける。
- ②ゆっくりと立ち、歩いてみる。
（コース下記参照）
- ④本来薪や作物（ここでは重り）が入れているので、降ろす時はこぼさないように注意させる。

★ コース

- ①体験する集団は、「バーキ」「ティール」2グループに分かれると、指導しやすい。
- ②一方を体験後、もう一方と交代して体験する。



2) 運搬の道具【薪】（オーダー／担ぎ棒）



導入のポイント

☆この体験では、「薪を運ぶために、昔の人はどういう道具の工夫をしていたか」について学ぶことを伝える。

☆導入

Q：みなさんが家で生活するときに、今は様々な設備が整っていますね？

A：場面問いかけと、予想される答え

①飲み水やお風呂 → 水道

②寒い時 → エアコンやクーラーなど → 昔は火を焚いて暖をとっていた。

③料理をする時 → ガスコンロや電気を使った調理器 → 昔は燃やす「燃料」が必要。

★今はガスや電気の設備が発達していますが、昔の人は自分の身の周りにある、さまざまな材料を使って、道具を作りだし、料理に必要な火を起こす薪は、人の力で刈り取り、運んでいました。

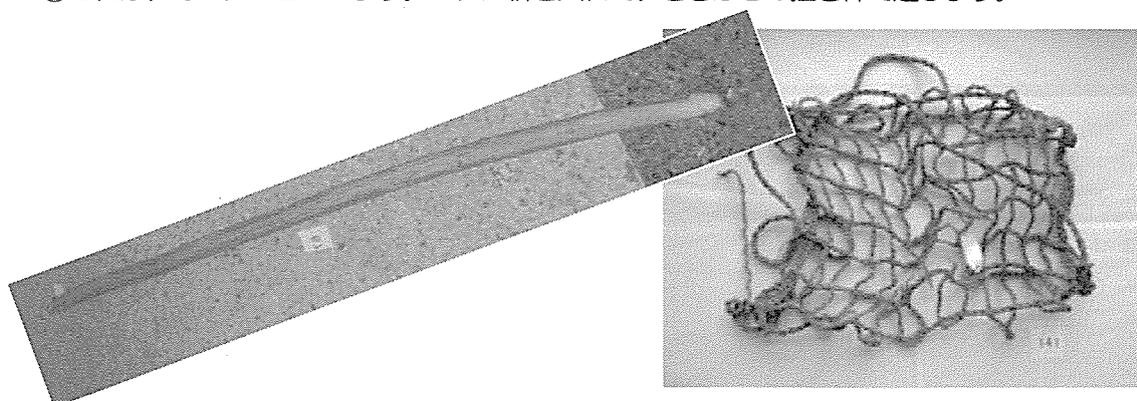
★いまから体験する「薪を運ぶ」道具を体験して、「昔の人たちの苦勞」「たくましさ」を感じてみましょう。

展開1（道具の名前・材料を知る）

皆さんがこれから使う道具について、紹介しましょう。（それぞれ物を見せながら）

①これは、担ぎ棒です。主に堅い木の枝や幹から作られます。

②これは、オーダーといいます。これに薪を入れて、さきほどの担ぎ棒で運びます。

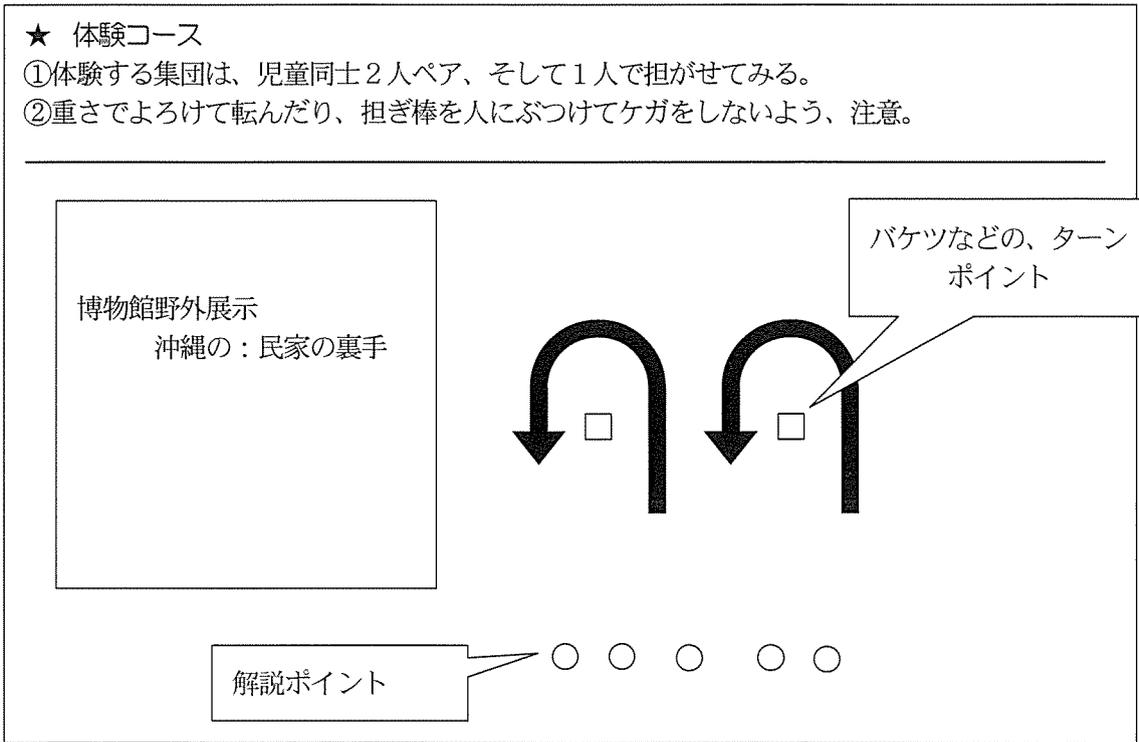


それでは、実際に担いでみながら、詳しく説明していきましょう。

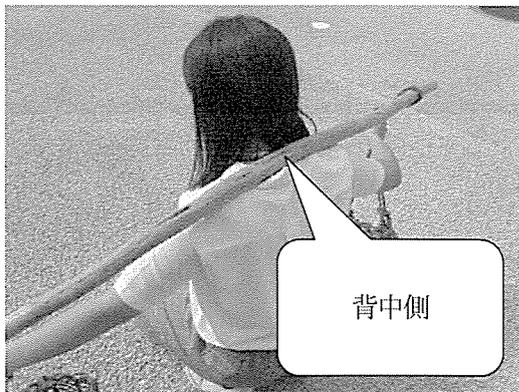
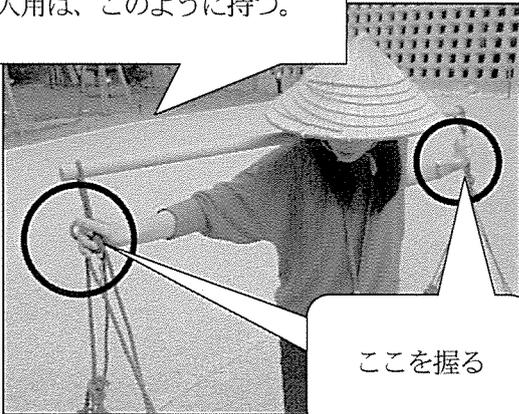
展開2（体験のコースと使い方の理解）

★ 体験コース

- ①体験する集団は、児童同士2人ペア、そして1人で担がせてみる。
- ②重さでよろけて転んだり、担ぎ棒を人にぶつけてケガをしないよう、注意。



1人用は、このように持つ。



☆使い方1

持つときにはしゃがんでスタンバイする。

★指導者や介助者は、危険が無いよう、児童の安全管理に配慮する。

☆使い方2-1《1人用》

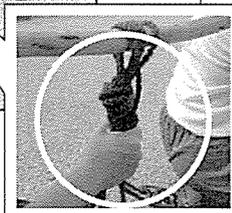
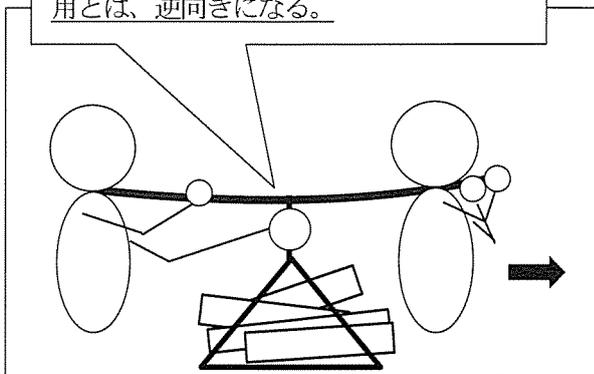
①しゃがんだらオーダーのロープをしっかりと握る。

★担ぎ棒は、肩の湾曲にあわせて担ぐと楽になる。

③ゆっくりと立ち、歩いてみる。
（コース参照）

④ここではオーダーに薪が入れているので、降ろす時はこぼさないようにしゃがんで降ろすよう注意させる。

2人用は、このように後ろの者がオーダーのロープを握る。担ぎ棒の湾曲は1人用とは、逆向きになる。



☆使い方2-2《二人用》

①まず、1人用と同じように2人がしゃがんで担ぐ。

★後ろの者が、ロープを握る

★後ろの者が、「立ちます。」と前の者に合図を送り、立ち上がる

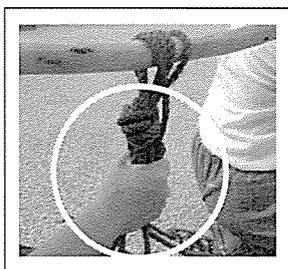
★昔は、後ろを持つ者が年長者で、前の者に動きの指示を行っていた。

★担ぎ棒の湾曲の方向が1人用と逆なのは、この方が重い荷物を真ん中で安定させることができるから。

②ゆっくりと立ち、歩いてみる。

（コース下記参照）

③ここではオーダーに薪が入れているので、降ろす時はこぼさないようにしゃがんで降ろすよう注意させる。



終末（昔の人の苦勞を知り、道具への知恵を知る）

Q：みなさん、薪を運んでみて、どうでしたか？

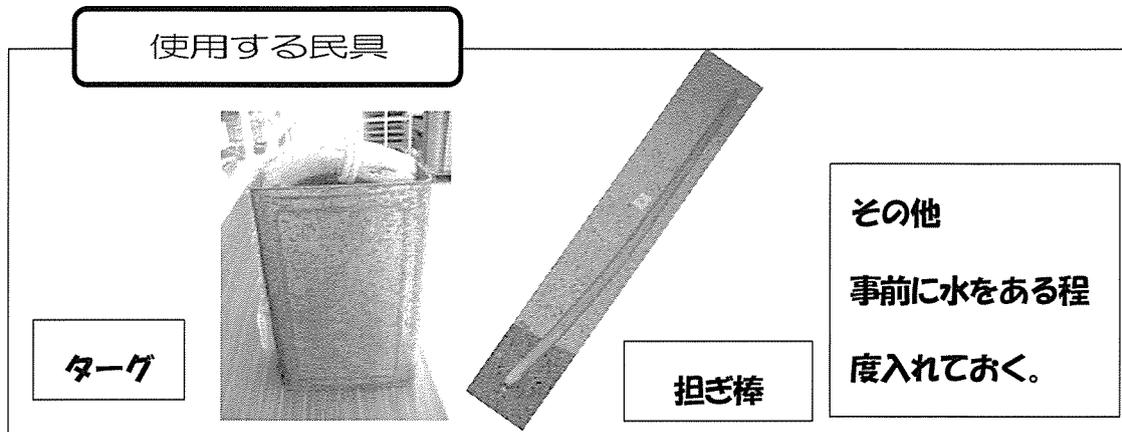
A：「キツかった」

「重かった」「楽しかった」

☆この仕事は、昔は女性や子どもの仕事でした。生活のために欠かせない大切な薪を運ぶことは、大変な作業だったんだなということを学びましたね。

☆また、この体験から学んでほしいもう一つのことは、「昔は不便だった」「今は便利になった」だけじゃなく、昔の人たちの道具に込められた、「工夫のすごさ」昔の人たちの「たくましさ」も感じてもらえればと思います。

3) 運搬の道具【水】（ターグ／担ぎ棒）



導入のポイント

☆この体験では、「水を確保するために、昔の人はどういう道具の工夫をしていたか」について学ぶことを伝える。

☆導入

Q：みなさんが家で生活するときに、今は様々な設備が整っていますね？

A：場面問いかけと、予想される答え

- ①暑い時 → エアコンやクーラーなど
- ②料理をする時 → ガスコンロや電気を使った調理器
- ③飲み水やお風呂 → 水道

★今は水道が発達していますが、昔の人は自分の身の周りがある、さまざまな材料を使って、道具を作りだし、生活に必要な水は、人の力で運んでいました。

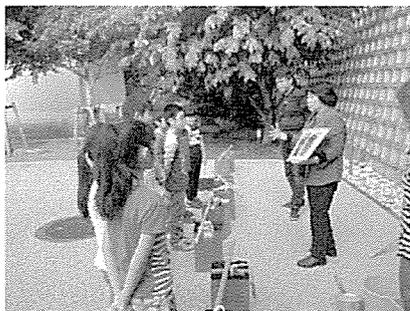
★いまから体験する「水を運ぶ」道具を体験して、「昔の人たちの苦勞」「たくましさ」を感じてみましょう。

展開1（道具の名前・材料を知る）

皆さんがこれから使う道具について、紹介しましょう。（それぞれ物を見せながら）

- ①これは、担ぎ棒です。主に堅い木の枝や幹から作られます。
- ②これは、ターグといいます。これに水を入れて、さきほどの担ぎ棒で運びます。

★（資料を見せて）昔は、木でできたオケを使っていましたが、ここでは金属製の入れ物を用意してあります。



それでは、実際に担いでみながら、詳しく説明していきましょう。

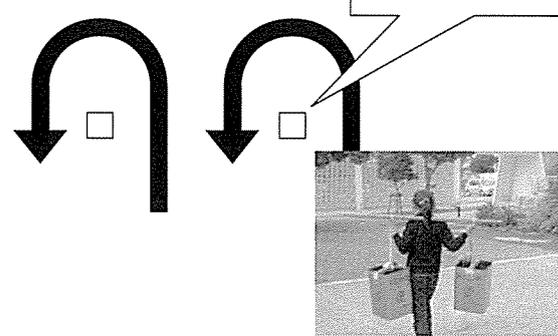
展開2（体験のコースと使い方の理解）

★ 体験コース

①体験する集団は、児童同士2人ペア、そして1人で担がせてみる。
②重さでよろけて転んだり、担ぎ棒を人にぶつけてケガをしないよう、注意。

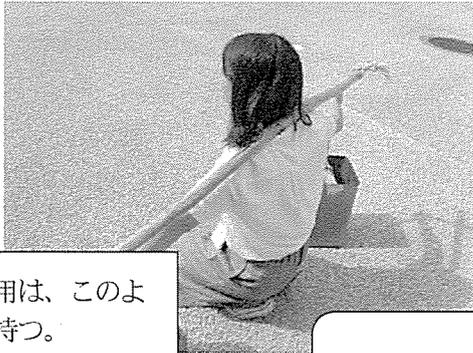
博物館野外展示
沖縄の：民家の裏手

バケツなどの、ターン
ポイント



解説ポイント

○ ○ ○ ○ ○



1人用は、このように持つ。

ここを持つ



進行方向

☆使い方1

持つときにはしゃがんでスタンバイする。

★指導者や介助者は、危険が無いよう、児童の安全管理に配慮する。

☆使い方2-1《1人用》

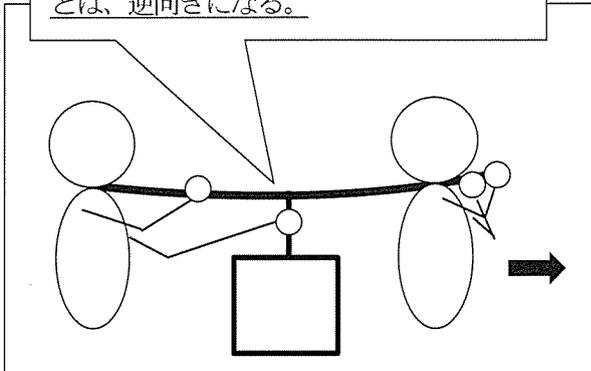
①しゃがんだらターグのロープをしっかりと握る。

★担ぎ棒は、肩の湾曲にあわせて担ぐと楽になる。

③ゆっくりと立ち、歩いてみる。
（コース参照）

④ここではターグに水が入れているので、降ろす時はこぼさないようにしゃがんで降ろすよう注意させる。

2人用は、このように後ろの者がターゲットのロープを握る。担ぎ棒の湾曲は1人用とは、逆向きになる。



☆使い方2-2《二人用》

①まず、1人用と同じように2人がしゃがんで担ぐ。

★後ろの者が、ロープを握る

★後ろの者が、「立ちます。」と前の者に合図を送り、立ち上がる

★昔は、後ろを持つ者が年長者で、前の者に動きの指示を行っていた。

★担ぎ棒の湾曲の方向が1人用と逆なのは、この方が重い水の容器を真ん中で安定させることができるから。

②ゆっくりと立ち、歩いてみる。
(コース下記参照)

③ここではターゲットに水が入れているので、降ろす時はこぼさないようにしゃがんで降ろすよう注意させる。

終末（昔の人の苦勞を知り、道具への知恵を知る）



曲がっているかつぎ棒と、まっすぐな棒とでは使い勝手がどう違うか確認してみてもよいと思います。

Q：みなさん、水を運んでみて、どうでしたか？

A：「キツかった」

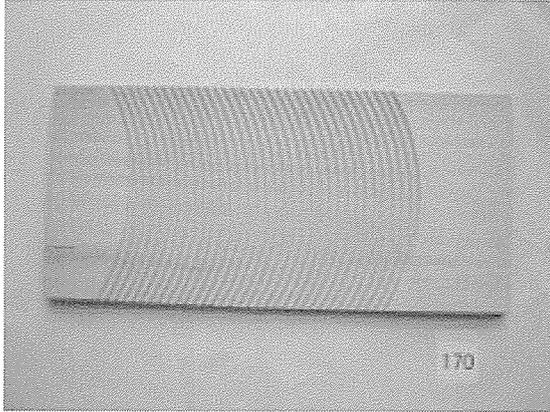
「重かった」「楽しかった」

☆この仕事は、昔は女性や子どもの仕事でした。生活のために欠かせない大切な水を運ぶことは、大変な作業だったんだなということ学びましたね。

☆また、この体験から学んでほしいもう一つのことは、「昔は不便だった」「今は便利になった」だけじゃなく、昔の人たちの道具に込められた、「工夫のすごさ」昔の人たちの「たくましさ」も感じてもらえればと思います。

4) 洗濯の道具【洗濯】（洗濯板／ターレー）

使用する民具



洗濯板



ターレー

そのほか

☆雑巾 など

導入のポイント

☆この体験では、「洗濯をするために、昔の人はどういう道具の工夫をしていたか」について学ぶことを伝える。

☆導入

Q：(写真を見せて) これらの道具は何という名前でしょうか？（洗濯板・ターレーの写真）

Q：みなさんの家で、身近な洗濯の道具といえば、なんですか？（A：洗濯機）

★今は電気や水道があるおかげで、洗濯をするときにとっても苦労することはありません。

★しかし、昔は洗濯をするにも、水を汲んできたり、水がある場所まで出かけていかなければなりません。当然、電気や水道もない時代もありました。

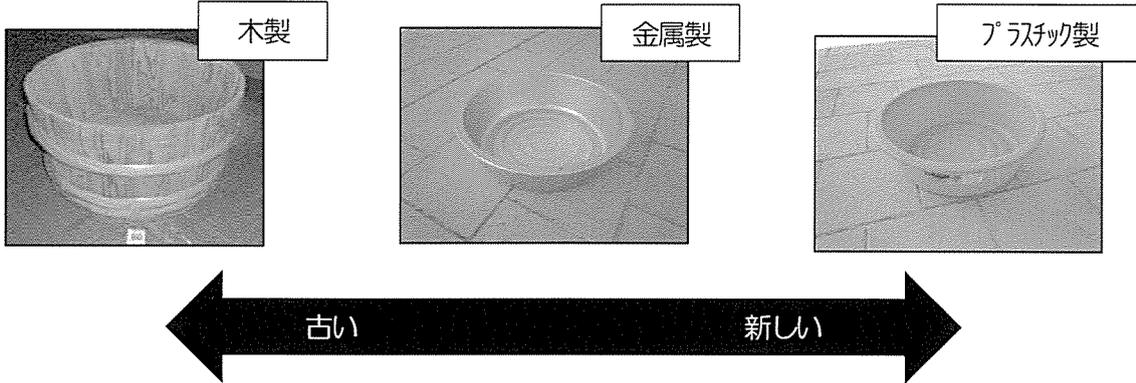
★しかし、昔の人は自分たちで使う道具が便利に使えるように、さまざまな工夫をこらしていました。ここでは、そこを学んでいきましょう。

展開1（道具の素材・機能を知る）

それでははじめに、ターレー（たらい）がそれぞれ何でできているか、見てみましょう。

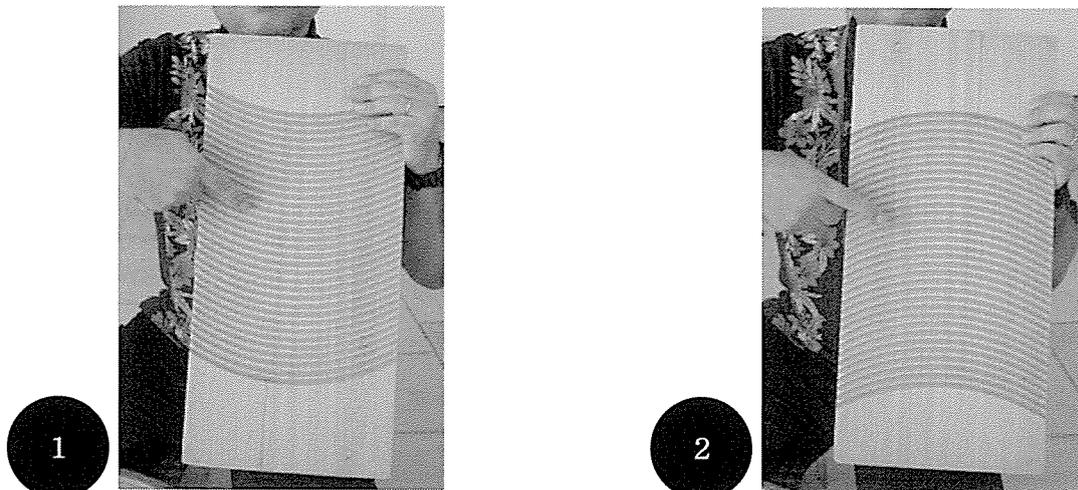
※木製のターレーのほかに、金属製やプラスチック製品のものも提示する。

どの順番に古いか、皆さんはわかりますか？答えは、木製のものが一番古く、あとの時代になって金属製のターレーに変わっていきました。その後プラスチックが発明されてからプラスチック製品のターレーが使われるようになりました。皆さんにとって身近に見るのはどれでしょうか？



では次に、洗濯板の溝に注目して見てみましょう。（指導者は洗濯板を裏返したりしながら、表と裏の溝の違いに気づかせる）

洗濯板は、うらおもてで溝の方向が違うことに気づく。



昔も今も、洗濯に必要なことは2つあります。それは、

- ①汚れを洗剤で汚れを落としてきれいにする。
- ②洗濯ものの洗剤を、水できれいに落とす（すすぐ）ことです。

皆さんの目の前にある洗濯板は、何とこの二つの機能をそなえているのです。

それでは、使い方を説明しながら、その機能について勉強していきましょう。しゃがんでください。

展開2（使い方について知る）



☆使い方1

★最初は、前ページ①の向きを表にしてある。

★あらかじめターレーには、水を張っておく

☆最初の仕事は、「汚れを落とす」ことです。雑巾を水に浸して、板の溝にこすりつけてみましょう。

△ポイント①

雑巾からこぼれた水は、板の溝をつたって、どんなふうに流れていくか、良く見てください。

▲水は、真ん中に集まって、下の方へ流れているでしょうか？このおかげで洗剤が洗濯物に残りやすくなって、汚れが落ちやすくなるんです。

☆では、「汚れが落ちた」状態なら、今度は、すすぐには、板の向きをどうしたらよいと思いますか？

△ポイント②

※板を裏返して②の状態にして使うよう誘導する。

▲水は、端っこに集まって、板の横から下の方へ流れているでしょうか？このおかげで洗剤が流れやすくなって、すすぎがしやすくなるんです。



洗濯板の溝の向きに注意



終末（昔の人の苦勞を知り、道具への知恵を知る）



☆みなさん、立ち上がってください。

☆皆さんが体験した洗濯は、昔は女性の仕事でした。家族も多く、兄弟も多い場合にはたくさんの洗濯物を洗わなければならなかったと思います。
皆さんはしゃがんで作業をして、楽でしたか？どうでしたか？

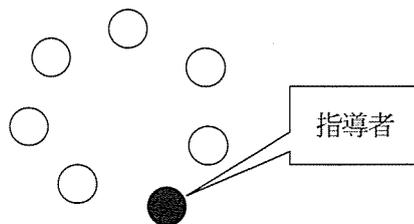
★（身体が）しんどかったですね。昔の人たち（女性たち）は、大変な思いをして仕事をしていたんですね。機械化され、便利になった現代に生きている皆さんは、便利な道具への感謝を忘れてはいけませんね。

☆しかし、ここで学んでほしいことは、「昔は不便だった」「今は便利になった」だけじゃなく、紹介した「洗濯板」のように、不便ながらも、生活を便利にしていこうという、昔の人たちの道具に込められた、「工夫のすごさ」を感じてもらえればと思います。

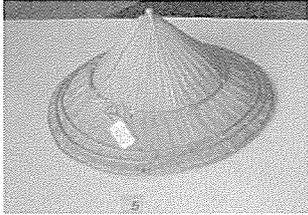
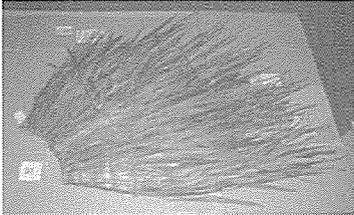
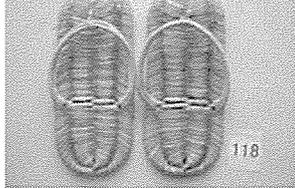
※時間に余裕があれば、感じたこと、感想などを発表させる。

★ コース

①体験する道具は、円状に配置すると、指導しやすい。



5) 着衣の道具【着衣】(クバガサ／クバンヌー／アダン葉サバ)

使用する民具		
		
クバガサ	クバンヌー	アダン葉サバ

☆お断り「アダン葉サバ」に関しては、実物紹介のみの資料となります。(着衣不可)

導入のポイント

☆この体験では、「外で快適に過ごすために、昔の人はどういう道具の工夫をしていたか」について学ぶことを伝える。

☆導入

Q：みなさんが外で作業をする時、快適に過ごせるように着るものを工夫しますよね？

A：場面問いかけと、予想される答え

- ①雨が降ったとき（カップ・カサ）
- ②さむいとき（ジャンパー・セーターなど）
- ③暑いとき（日がさ 他）※暑いときは、足も暑さをふせぐ必要があること（靴など）

★今はいろんな素材で道具ができていますが、昔の人は自分の身の周りにある、さまざまな材料を使って、道具を作りだしていました。

★いまから体験する「着る」道具は、一つの道具で暑さ・寒さ・雨のときなど、いろんな場面に使われていた、「万能スーツ」だったかも？

展開1（道具の名前・材料を知る）

皆さんがこれから着る道具について、紹介しましょう。（それぞれ物を見せながら）

- ①これは、クバガサです。「クバ」という植物の葉から作られます。よく見ると、竹や紐も使われていますね。
- ②これは、クバンヌーです。さきほどの「クバガサ」と同じクバの葉からできています。
- ③これは、アダン葉サバといいます。海辺に生えている、実が「パイン」に似た植物を知っていますか？その葉からできています。

（靴、靴下を脱がせて）皆さんそれぞれ助け合って道具を着てみましょう。この道具の材料がどんな触り心地か、着て触れながら感じてみましょう。



道具はそれぞれ、植物などの天然素材でできていることを知る。

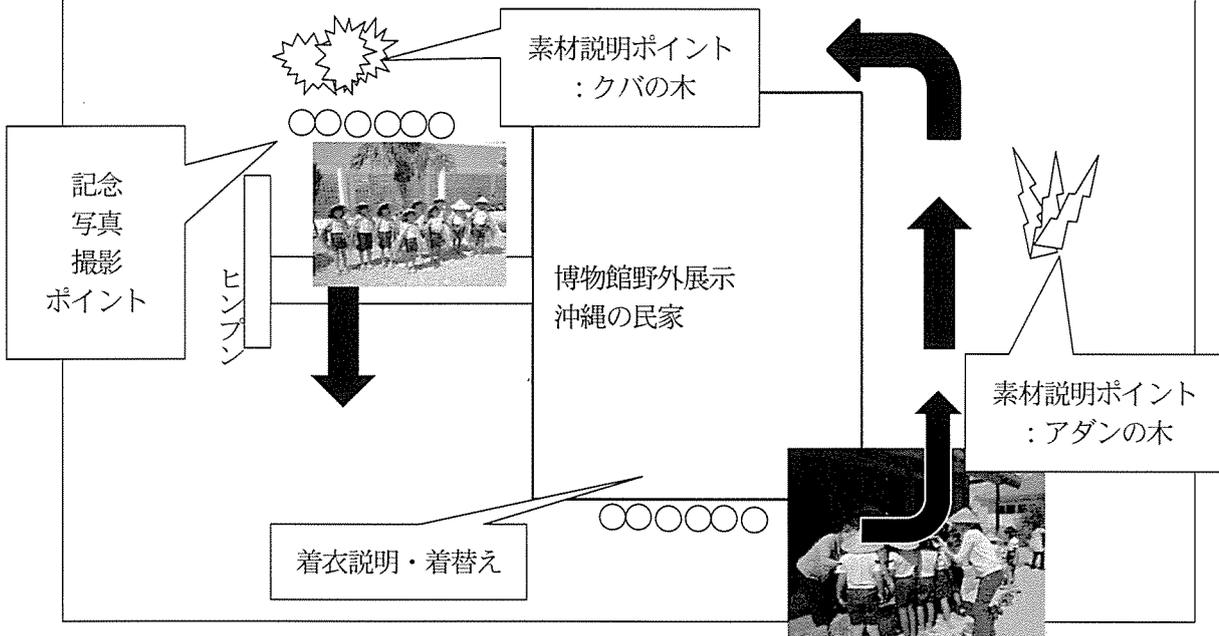
それでは、民家の周りを廻りながら、材料について説明していきましょう

展開2（材料について知る）素材の実物紹介

※紹介は、時間に余裕がある場合行う。コースは、着衣を行わせたら、民家周辺を歩かせる。

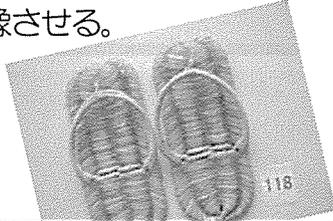
★ 体験コース

- ①体験する集団は、児童同士ペアを組ませ互いに着衣をしあうか、大人が着付けを介助するとしやすい。
- ②女子児童の髪型・上着・タイツやスパッツなどへの事前配慮
 - 髪→クバガサを被りやすくする 上着→資料の保護から、ニットは禁止 等

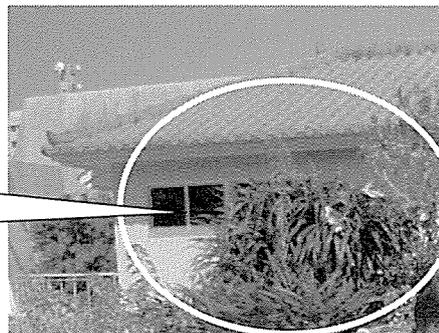


素材説明：アダンの木

- ☆皆さんがはいているサバ（ソウリ）の材料は、※民家裏手の植栽右手に見える、「アダン」という木の葉っぱから作られます。
- ☆葉をきれいに引き裂いて、編み込んで作ったのが、皆さんが今ははいているサバ（ソウリ）になります。
- ☆昔は、手の器用な人や子どもの中には、1日に3足も作ることができる者もいたそうです。
- ★（時間的に余裕があれば）砂利道を歩かせながら、「裸足で歩くこと」や「現代の靴」の便利さ、自然の素材を使用して道具を作った、先人の知恵について想像させる。



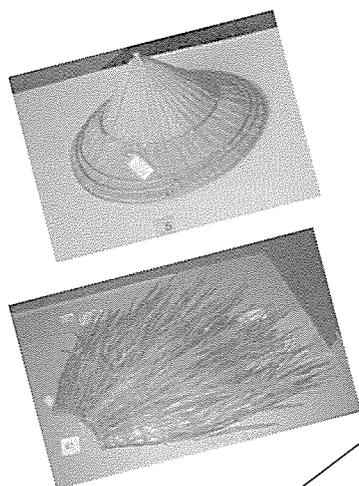
アダンの木
屋外展示「民家」の裏手にある。
当館のアダンは、トゲのない、珍しい品種。



素材説明：クバの木

☆続いて、この木の名前は、「クバ」といいます。これは皆さんが来ている「クバガサ」や「クバンヌー」の原料になります。そのほかにも、ウチワとして暑さをしのぐ、「クバオージ（クバ扇）」なども、この木の葉から作られています。

※必要に応じて、クバの葉（本物）やクバ扇など、児童の手に触れさせる



クバの木
屋外展示「民家」の正面にある。



終末（昔の人の苦勞を知り、道具への知恵を知る）



※着衣を脱がせる。

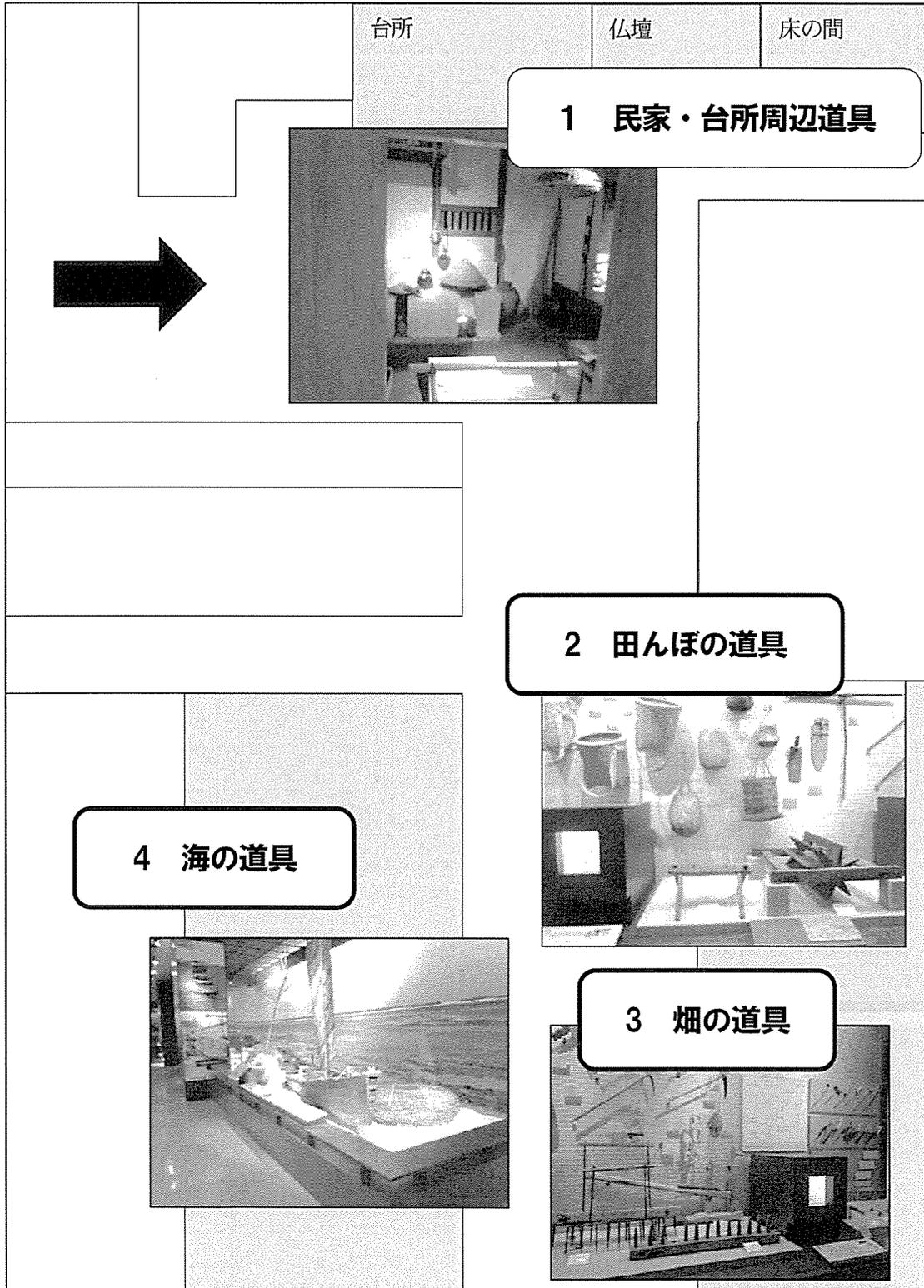
☆みなさん、着替えながら耳はお話に注目して下さい。

☆この体験で学んでほしいことは、「昔は不便だった」「今は便利になった」だけじゃなく、紹介したこれらの道具のように、生活を便利にしていこうという、昔の人たちの道具に込められた、「工夫のすごさ」を感じてもらえればと思います。

※時間に余裕があれば、感じたこと、感想などを発表させる。

(民具体験：学校対応用) 民俗部門展示解説マニュアル

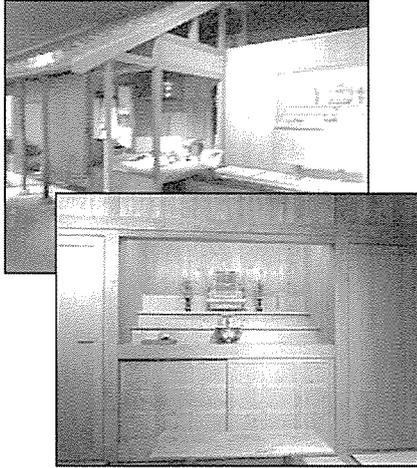
○ 民俗展示部門見取り図



1 台所周辺の道具について

<ポイント>

水道・ガス・電気などのインフラ（設備）のない時代に、昔の人はどんな工夫をおこなって生活していたか。



導入

これは昭和初期（民具体験では、「みなさんのひいおじいさんや、ひいあばあさん」の、と時代を説明）の、裕福な農家の家を参考に再現したもの。

☆屋根に瓦が使われている。

向かって右から、

「一番座（床の間）」

「二番座（仏壇）」→現在も展示と同じような家庭もある。

「三番座（食事をするところ）」→今はどんな場所の名前で呼んでいるか？※答え：ダイニングなど

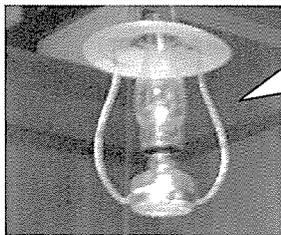
みんなの家と展示物の違いはどこだろう？

「台所」→ 中にある道具を紹介しながら、現在のみなさんの家にある道具と比較していく。



「三番座（食事）」

昔は三番座では、主人と長男しか食事では使えなかった。他の家族は、「裏座」で食事をしていた。



「三番座天井付近にあるランプ」

☆現在では、どんな照明器具に変わっているか？

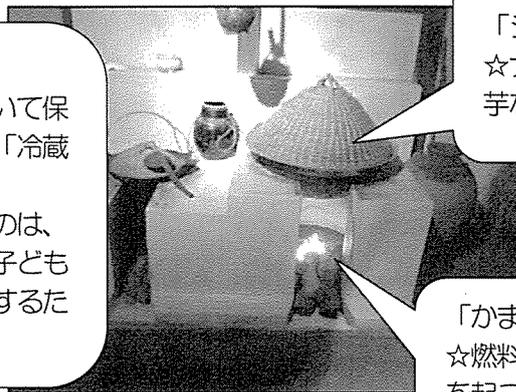
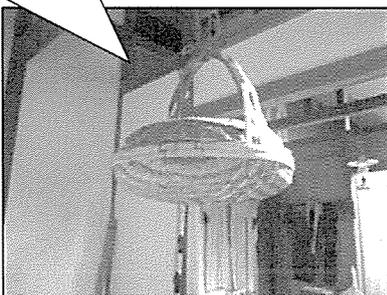
☆燃料は油を使うため、あかりを灯すガラスの部分（ホヤという）にススがつき、真っ暗になってしまう。そこで、毎日そうじするのは手の小さな子どもが多かったようだ。

☆現在の照明器具との明るさの違いにも注目させる。

「サギジョーキ」

☆風通しの良いところに置いて保存しておくための、現在の「冷蔵庫」の役割。

☆高いところに下げておくのは、ネズミや虫の侵入防止と、子どもが不用意に食べないようにするため(?)。

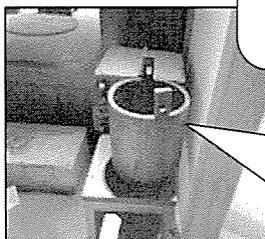


「シンメナービとカマンタ」

☆ナービは鍋、カマンタはフタ。芋などの蒸し料理に使われていた。

「かまど」

☆燃料は切った木を集めた、薪で火を起こした。現在では何に取って代わっているか。→答え：コンロ



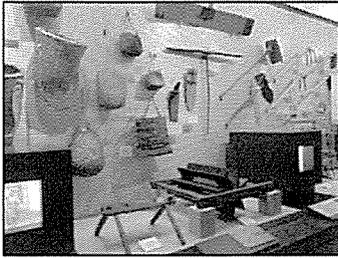
「出入り口付近にある桶」

☆水道の無い時代には、子どもや女性が井戸や水の出るところまで汲みに行く、重労働だった。

2 田んぼの道具について

<ポイント>

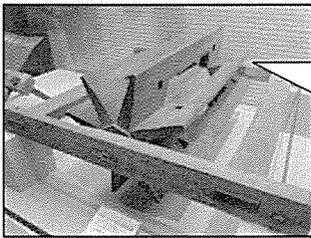
田んぼのあった地域の昔の人々は、管理を行うためにどんな道具で工夫していたか。



導入

このコーナーは、昔の人たちが、田んぼを維持・管理していくために、どのような道具の工夫があったかを説明。
機械ではなく、牛や馬、人力で作業を行っていたことを説明。

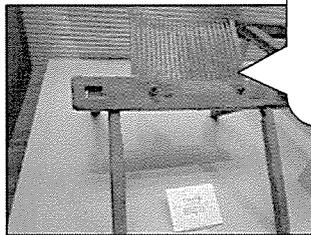
<クルバチャー>



☆「ジオラマを見せながら」昔の田起しの様子であることを伝える。
☆この道具は、今ではどんなモノを使っているか。
→ 答え：機械、耕耘機（こううんぎ）

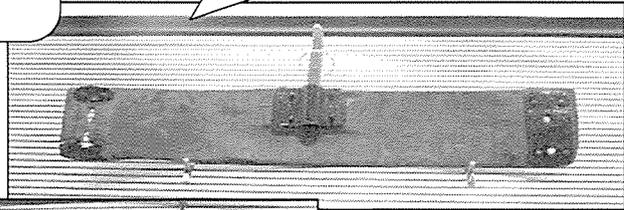


<シンバ>



☆「千歯（せんば）」
☆刈り取った稲穂や粟などを、こきとる道具

☆「マーカ（田均し板）」
☆耕した田んぼを、均等に地ならしするために使用した。



☆「スライタ（苗代均し板）」
☆主に人力で使用していた。

☆「ターノーサ（田均し板）」
☆上記マーカ同様、耕した田んぼを、均等に地ならしするために使用した。

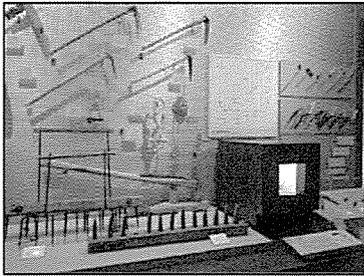
☆「ウズンピーラ（水田用ヘラ）」
☆スライタと使い方は同じ。

この話のポイント

※昔の人たちは田んぼを管理していくために、土の状態（乾燥しているか・水が貼った状態か）で道具を工夫して使い分けていた。

3 畑の道具について ＜ポイント＞

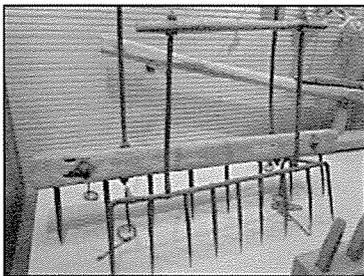
畑の管理を行うために、昔の人はどんな道具の工夫をおこなっていたか。



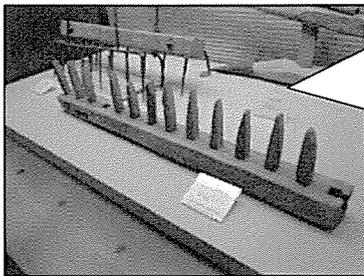
導入

このコーナーは、昔の人たちが、畑を維持・管理していくために、どのように道具で工夫し、使っていたのかについて説明。
機械ではなく、牛や馬、人力で作業を行っていたことを説明。

＜マーガ（馬鋤）＞



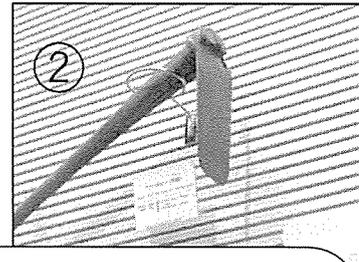
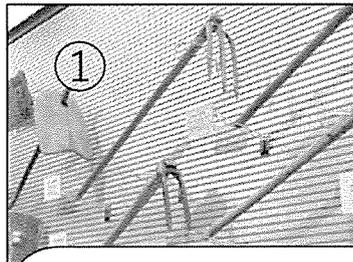
＜クルバシー（麦まき具）＞



☆この二つの道具は、畑を耕したり、種をまくために牛や馬に引かせて溝を作る道具だが、時には「田んぼ」でも土をならすために使われていたと言われる。



☆「ジオラマを見せながら」昔の畑作業の様子であることを伝える。

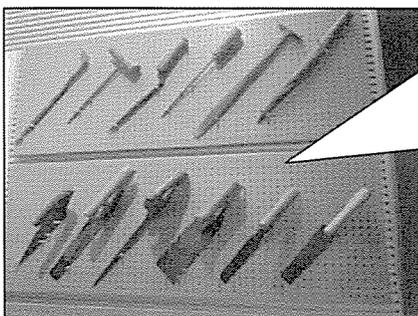


この話のポイント

※クワやヘラの形のちがいで便利なところが違う。
※土の性質によって形の違うクワやヘラを使っていた。

「鋤（クワ）の種類の違い」

- ①のクワは、二股や三股に分かれている。硬い土を耕すときや、イモなどを収穫するとき、この道具を使うと多くの収穫物を傷つけずに掘り出すことができる。
- ②のクワは、①と比べて多くの土をかき出すことができるので、土を耕すのに向いている。



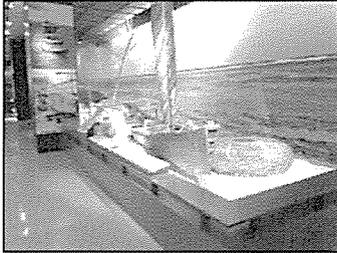
「ヘラの種類（先の形）の違い」

☆ヘラは、畑の土を掘る道具である。
☆土が硬かったり、柔らかめの土であったり、土地によって様々である。
☆先の形の違いは、「平たい」ものは、土が軟らかい状態の時に使う。「とがっている」ものは、堅い状態の時につかうもので、それぞれの地域によっても、違いがある
☆形の違いに注目させる。（ヘラ展示の隣にあるパネルを観ながら話すと、地域によって形が違うことに気づく）

4 海の道具について

<ポイント>

- (1) 昔の漁師（海人）は、限られた道具をいかに工夫して使っていたか
- (2) 船の製造方法の変遷など、時代ごとにどのような変化があったか



導入

このコーナーは、昔の漁師の人たちが、
①持っていく荷物が限られた船の上で、どのような道具を使い、工夫して過ごしていたか。
②船の製造方法など、時代によってどんな変化があったのかを説明。

(1) 昔の漁師（海人）は限られた道具でいかに工夫して過ごしていたのか <ユートウイ>

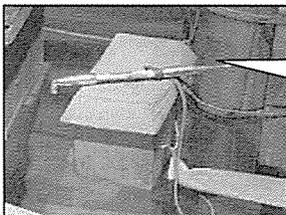
さばいた魚を食べるための器 ※道具では、お皿の役目	船にたまった水を取り除く ※今は洗剤のボトルなど、木の素材からプラスチックの素材のものに変わっている	ひっくり返して魚をさばく ※まな板の役目
とれた魚を、船からすくい上げる ※現在で使う道具では、スコップなどの役目		

<ミーカガン>



☆この道具の名前は、「ミーカガン」→ 今の水中めがね
☆キャプション「ミーカガンの発明」を読みながら解説する。
☆材質は、「モンパノキ」を使う。この木は枝や幹の真ん中に、穴が空くところが特徴で、その特徴を利用してこの道具が作られた。

<たばこ入れ>

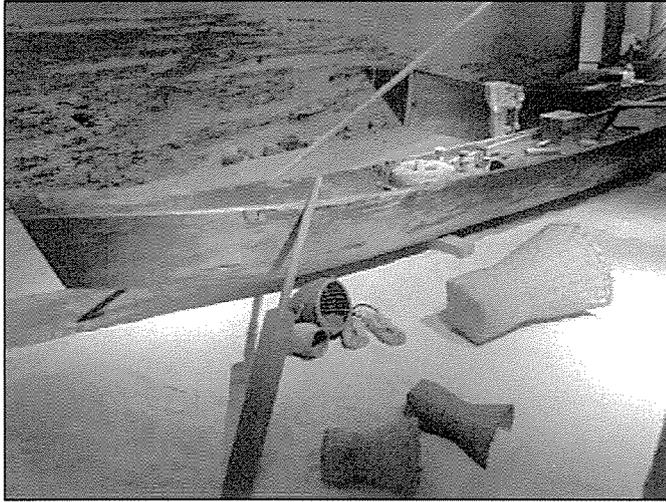


☆たばこを入れておく道具のほか、ふたのラウンドしたところはなにに使われていたか？ → 答え：枕

この話のポイント

※昔の人は、一つの道具でいろんな使い方をしたり、自然のものをうまく利用して生活に便利な道具を生み出していった。

（２）船の製造方法の変遷など、時代ごとにどのような変化があったか
＜最初のころの時代のサバニ＞



☆製造方法1

初期の時代のサバニは、まるまる一本の丸太を切ってきて使っていた。

☆製造方法2

その丸太をそのまま船の形に削って、一隻の船にしていた。

☆この方法は、丈夫で長持ちする船を作ることはできるが、大きな木が必要なため、だんだんと取れなくなっていった。

☆柱の写真に注目

1 本まるごと削る方法のほかには、いくつかの木を組み合わせて作る方法もあった。

＜あとの時代になつてのサバニ＞

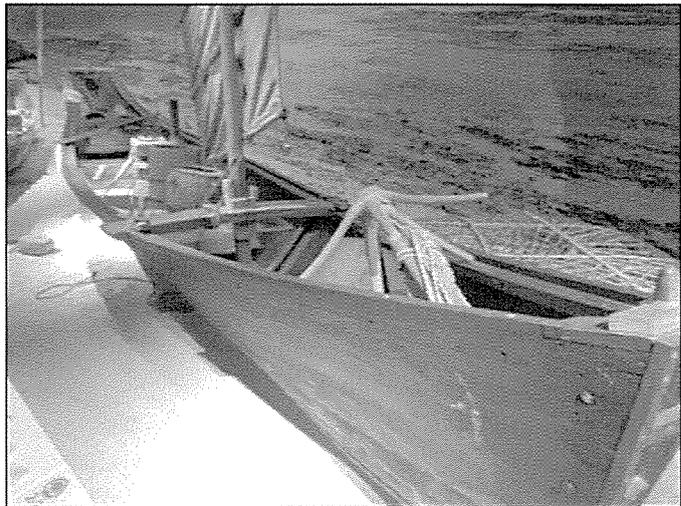
☆製造方法の変化

大きな木が取れなくなってくると、船を作る材料に、大きな太い丸太ではなく、板を使って作る必要が出てきた。

☆製造方法

そのために、細い木を「板」の形にして、組み合わせて作った。

☆この方法は、大きな木を使う必要がない反面、釘などさびやすい道具を使っている。



＜そのほか＞

○モリや網など、昔も今も変わらない漁具があることにも触れる。

○使われている材質の、時代による変化にも触れてみる（木材から他の材質などへの変化や、道具の機械化など）

学校対応 民具解説（民具の素材について）

1 クバの葉から作られる民具について

<ポイント>

昔の人は、生活の中で、周りの環境にある、身近な素材を使って道具を生み出していったこと。

導入

【クバの葉、アダンの葉を見せながら】※手に入った場合
ここでは、昔の人たちがクバの葉を使って、どのような道具を生み出していったかを説明。

これらの道具

①クバガサ ②クバンヌー（みの）は、

■何のために使われていたか。現代では、これらはどのような道具にあたるか、違いや使い方を理解させるようにする。

使い方①

「日差しを防ぐための道具」
現代の道具で言えば、「帽子」など



使い方③

「寒さを防ぐための道具」
現代の道具で言えば、
「コート、ジャンパー」など

使い方②

「雨をしのぐための道具」
現代の道具で言えば、「傘・雨
カッパ」など

この話のポイント

※昔の人たちは一つの道具で、さまざまな目的のための使い方をしていた。

ミノは、多く束をつなげたり、厚みを増すことで、長さ・大きさや、気温への対応のために自由自在に変えることができた。

2 アダンの葉から作られる民具について

<ポイント>

昔は、ゾウリ（サバ）の製作を、子どもたちが家庭の仕事として行う場合があったこと、今の小学生ぐらいの子どもたちが器用に作っていたこと。

導入

ここでは、昔の子どもたちが、身近にある「アダンの葉」を用いてゾウリ（アダンバサバ）を作っていたことを説明。

素材の調達から製作まで、多くの手間が必要であることなどを説明。

作り方①

「材料の調達」

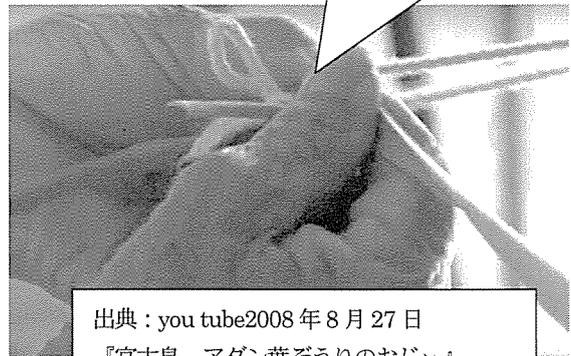
海岸などで自生しているアダンの葉を切り、トゲを取って縦に引き裂いたオビを沢山用意する。



作り方②

「ゾウリを編む」

ヒモにアダンの裂いたオビを編み込んで形をつくる。



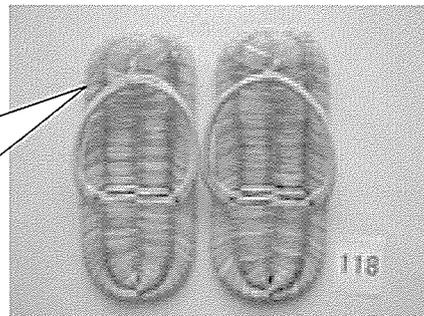
出典：you tube2008年8月27日

『宮古島 アダン葉ぞうりのおじい』

作り方③

「鼻緒をつけて完成」

現代の道具で言えば、「靴、サンダル、ぞうり」など



この話のポイント

※器用な子どもの中には、一日に三足も作ってしまう人もいた。

道路が舗装されていない時代、主に裸足で暮らしていた昔の人たちの、道具を生み出していく工夫のすごさ、たくましさを感じさせる。